

Asia Indicators

発表日: 2021年3月12日(金)

台湾・輸出入は世界経済の回復で堅調さが続く(Asia Weekly(3/7~3/12))

～主力の半導体など電子部品関連の堅調さが輸出を押し上げる展開～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
 主席エコノミスト 西濱 徹(Tel: 03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
3/7(日)	(中国)2月輸出(年初来前年比)	+60.6%	+38.9%	+18.1%
	2月輸入(年初来前年比)	+22.2%	+15.0%	+6.5%
3/9(火)	(台湾)2月消費者物価(前年比)	+1.37%	+0.80%	▲0.17%
	2月輸出(前年比)	+9.8%	+10.5%	+36.8%
	2月輸入(前年比)	+5.7%	+12.2%	+29.9%
3/10(水)	(中国)2月消費者物価(前年比)	▲0.2%	▲0.4%	▲0.3%
	2月生産者物価(前年比)	+1.7%	+1.5%	+0.3%
3/12(金)	(フィリピン)1月輸出(前年比)	▲5.2%	--	+1.7%
	1月輸入(前年比)	▲14.9%	--	▲8.2%
	(マレーシア)1月鉱工業生産(前年比)	+1.2%	+0.7%	+1.7%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[台湾]～インフレ率は前年の反動でプラスに転じるなか、輸出入は共に伸びが鈍化するも堅調な推移が続く～

9日に発表された2月の消費者物価は前年同月比+1.37%となり、前月(同▲0.17%)から2ヶ月ぶりとなるプラスに転じた。前月比も+0.46%と前月(同+0.37%)から上昇ペースがわずかに加速しているものの、国際原油価格の底入れの動きなどを反映してエネルギー価格は上昇基調が続く一方、生鮮品をはじめとする食料品価格は3ヶ月ぶりとなる下落に転じており、生活必需品を巡る物価の動きはまちまちの状況にある。なお、生鮮食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+1.63%となり、前月(同+0.06%)から伸びが加速している。前月比も+0.74%と前月(同+0.08%)から上昇ペースが加速しており、インフレ率全体の動き以上に上昇している。エネルギー価格の上昇に伴い輸送コストに押し上げ圧力が掛かりやすい状況ではあるものの、国際金融市場における通貨台湾ドル相場の上昇による輸入物価への下押し圧力を反映して幅広く財価格に下押し圧力が掛かる動きがみられる一方、新型コロナウイルスの感染収束による経済活動の正常化の動きが広がりを見せている上、春節(旧正月)の連休期間が重なったことでサービス物価に押し上げ圧力が掛かる動きもみられる。インフレ率及びコアインフレ率が加速している背景には、昨年同時期は新型コロナウイルスの感染拡大に伴う行動制限などの影響で物価に大きく下押し圧力が掛かっており、その反動が出たことが影響している。

また、同日に発表された2月の輸出額は前年同月比+9.8%となり、前月(同+36.8%)から伸びが鈍化した。前月比は▲0.2%と前月(同+1.9%)から2ヶ月ぶりの減少に転じているものの、中期的な基

調は拡大傾向で推移するなど堅調さを維持している。財別では、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連のほか、機械製品関連などで堅調な動きが続く一方、鉱物資源関連や食料品関連などで弱含むなど対照的な展開がみられる。国・地域別でも、中国本土向けのほか、米国やEUなど主要先進国向けに堅調な動きがみられるなど、世界経済の回復の動きが下支えしている様子がうかがえる。一方の輸入額は前年同月比+5.7%となり、前月（同+29.9%）から伸びが鈍化している。ただし、前月比は+6.7%と前月（同+0.9%）から2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きが続いている。原油をはじめとする国際商品市況の底入れの動きに加え、輸出の堅調さは素材及び部材などの需要を下支えする展開が続いている。結果、貿易収支は+45.10億ドルと前月（+61.93億ドル）から黒字幅は縮小している。

図1 TW インフレ率の推移

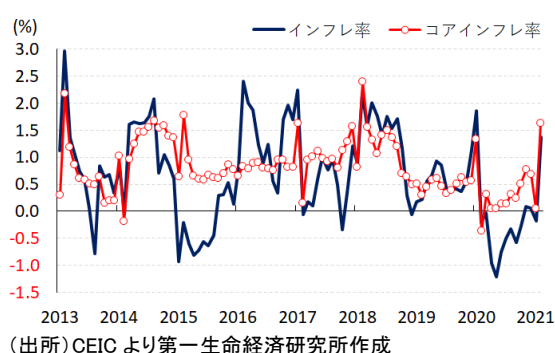
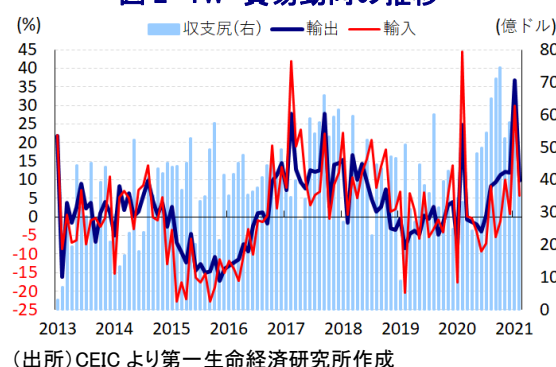


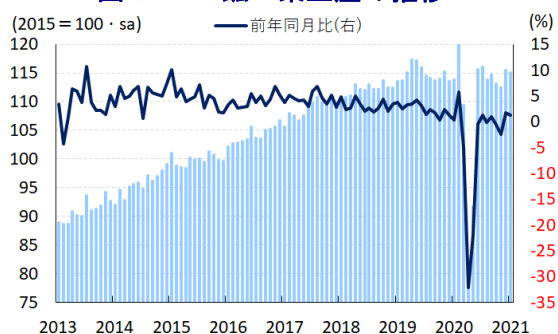
図2 TW 貿易動向の推移



[マレーシア]～主力の輸出財関連の生産は堅調な一方、緊急事態宣言に伴う操業率低下が生産の重石に～

12日に発表された1月鉱工業生産は前年同月比+1.2%となり、前月（同+1.7%）から伸びが鈍化した。前月比も▲0.32%と前月（同+2.70%）から2ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も減少傾向で推移するなど底入れが進んできた流れに頭打ち感が出ている。分野別では、国際商品市況の底入れの動きを反映して原油関連や天然ガス関連など鉱業部門の生産に底堅い動きがみられる一方、製造業部門の生産に調整圧力が強まる動きがみられるほか、経済活動の動向を反映する発電量も鈍化傾向を強める動きがみられる。なお、製造業部門では主力の輸出財である電子部品及び電気機械関連の生産は堅調な推移が続いている一方、輸送用機械関連や金属関連、縫製品関連、食品関連など幅広い分野で生産が鈍化して足を引っ張る動きに繋がっている。新型コロナウイルスの感染拡大を受けた緊急事態宣言の発令に伴う操業率の低下も生産活動の足かせになっているとみられる。

図3 MY 鉱工業生産の推移

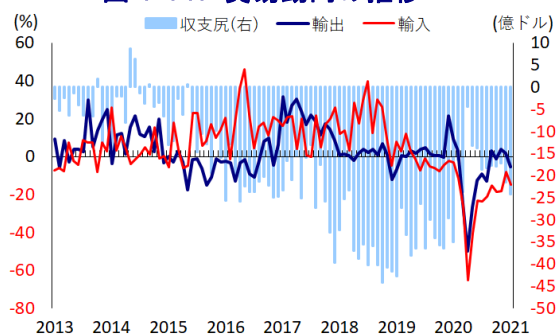


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[フィリピン]～輸出入ともに底入れの動きに一服感が出るも、基調として底堅い動きは変わらない展開が続く～

12日に発表された1月の輸出額は前年同月比▲5.2%となり、前月（同+1.7%）から3ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じた。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は3ヶ月ぶりの減少に転じるなど底入れの動きに一服感が出ているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅く推移している。財別では、化学製品関連のほか、主力の輸出財である半導体など電子部品関連に底堅さがみられる一方、農産品関連や鉱物資源関連の輸出に下押し圧力が掛かったことが足かせとなっている。一方の輸入額は前年同月比▲14.9%と21ヶ月連続で前年を下回る伸びとなり、前月（同▲8.2%）からマイナス幅も拡大した。前月比も2ヶ月ぶりの減少に転じているものの、中期的な基調は拡大傾向を維持するなど輸出同様に底堅い動きが続いている。輸出の堅調さを反映して素材及び部材関連に加え、機械製品関連の輸入にも底堅い動きがみられるほか、原油をはじめとする国際商品市況の底入れの動きも輸入額を下支えしている。結果、貿易収支は▲24.21億ドルと前月（▲21.49億ドル）から赤字幅が拡大した。

図4 PH 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。